

## 乗鞍岳の火山活動解説資料(平成30年5月)

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報(活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況(図1)

乗鞍高原監視カメラ(乗鞍岳の東北東約7km)による観測では、山頂部に噴気は認められません。

#### ・地震活動(図2 - 、図3)

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。  
火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況(図2 - ~、図4)

GNSS<sup>1)</sup>連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図1 乗鞍岳 山頂部の状況(5月20日、乗鞍高原監視カメラによる)

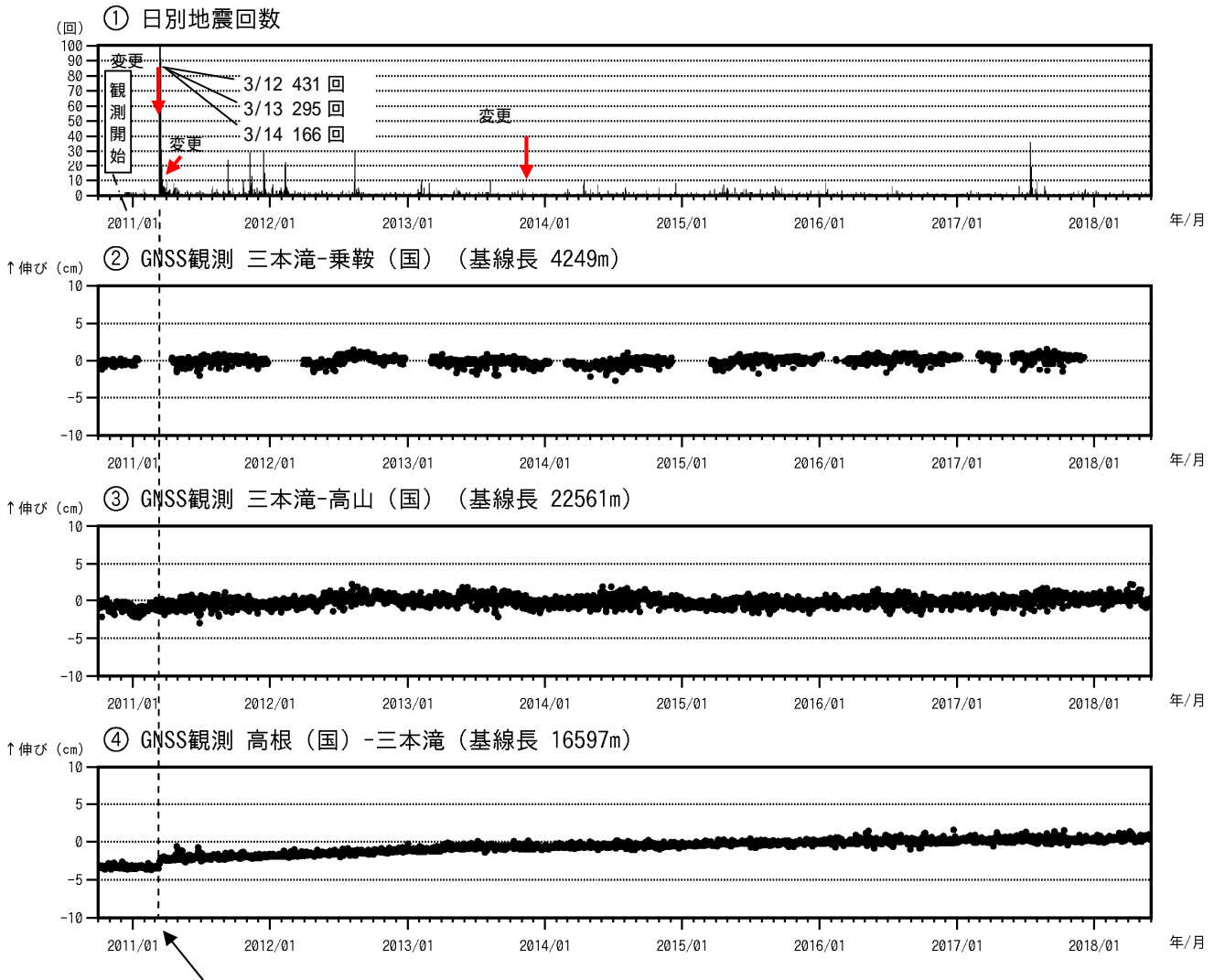
この火山活動解説資料は気象庁ホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧できます。

次回の火山活動解説資料(平成30年6月分)は平成30年7月9日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』、『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平29情使、第798号)。

【計数基準の変遷】			
観測開始	2010年12月10日	~ 2011年3月1日	三本滝振幅 0.5 $\mu$ m/s 以上、S-P2秒以内
変更	2011年3月2日	~ 3月10日	三本滝振幅 0.5 $\mu$ m/s 以上、S-P1秒以内
変更	2011年3月11日	~ 2013年11月1日	三本滝振幅 3.0 $\mu$ m/s 以上、S-P1秒以内
変更	2013年11月1日	~	三本滝振幅 2.0 $\mu$ m/s 以上、S-P1秒以内



平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震

図2 乗鞍岳 火山活動経過図

乗鞍岳周辺の日別地震回数(2010年12月10日~2018年5月31日)  
 ~ GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月1日~2018年5月31日) (国): 国土地理院  
 の基線には、『平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震』に伴うステップ状の変化がみられます。  
 ~ は図4のGNSS基線 ~ に対応しています。  
 のグラフの空白部分は欠測を示しています。

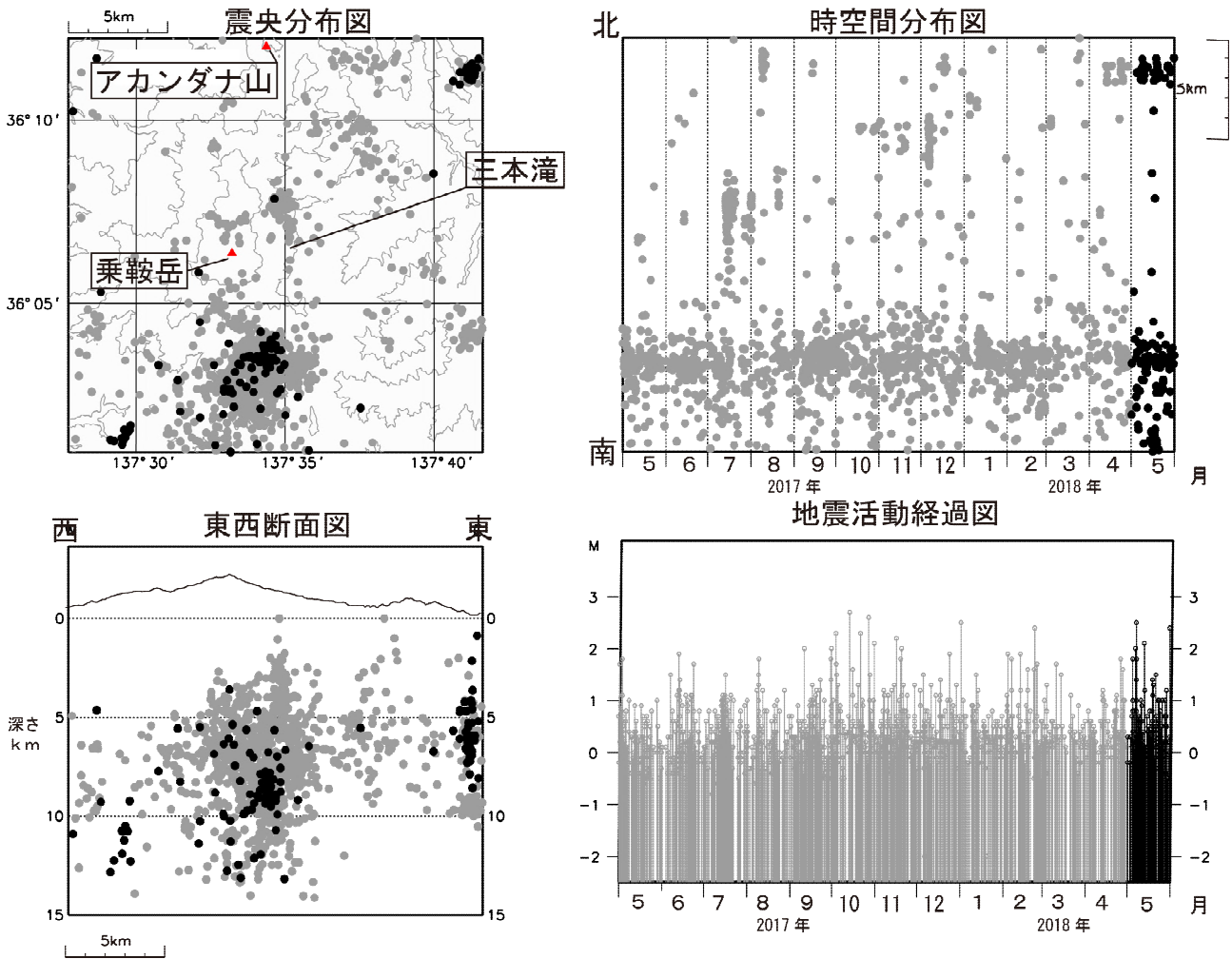
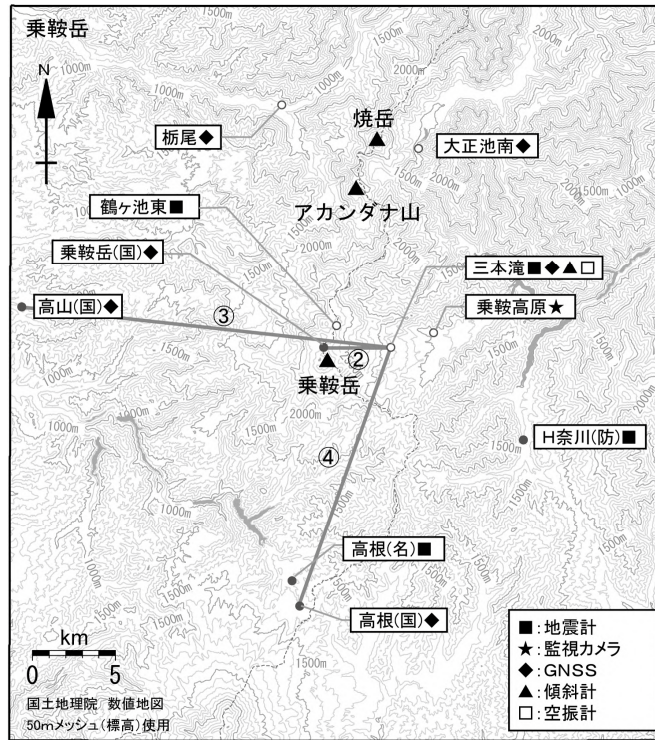


図3 乗鞍岳 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2017年5月1日~2018年5月31日)  
 : 2017年5月1日~2018年4月30日      : 2018年5月1日~5月31日  
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。M(マグニチュード)は地震の規模を表します。図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

- ・乗鞍岳周辺の地震活動は、低調に経過しています。
- ・乗鞍岳から南方へ約6km離れたところでまとまった地震活動がみられますが、構造性地震で乗鞍岳の火山活動と関係ないとみています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(名):名古屋大学

図4 乗鞍岳 観測点配置図  
GNSS基線 ~ は図2の ~ に対応しています。